

# 科野さざれ石

万延元年(1860年)・戸隠を扱った個所に「今年万延元年迄」とある)、橘鎮兄著。大正二年刊行の「科野佐々礼石」標註一四卷、補遺、雑下」に依るが、誤記誤植と思われるもの多々ある。( )は編者の補い。

逆川戸隠地内戸隠山高妻山乙妻山兩界山是を戸隠の三山といふ一の鳥居二の鶏柄三の花表戸隠の神は人皇第七代孝靈天皇治世三年初て鎮座今年萬延元年迄凡二千百四十七年今年三社の御宮建替有寶光院は天之春(天之表春)之

命を祭り中院は天の思兼之命を祭り奥の院の御本社には天之

手力雄之尊を祭寶光院中院奥院是を三谷といふ手力雄尊思兼の命春(表春)の命を戸隠の三神と云勸世音釋子にて天の手力雄の尊の親神也表春の命は手力雄の弟神也三神父子兄弟の神也天照太神素戔嗚の尊と國争の時天の岩戸

に引籠り玉へしを磐戸を開き日月を出せし御神とかや神書に紀伊國文殊手力男の神岩戸執て信濃國に投落る所今の戸隠嶽是也と云九頭龍權現は栗田某といへし者なるか種ヶ池に至

り龍頭と也九ツの頭顯は越後の國能生の尾の崎明神迄長くたれ今の世迄も一日一升の御膳飯を喰し白き烏焚木を集色道し

らぬ男子に守らす尚又神供喰する音耳に聳へ靈驗揚(場)然し此神代系譜等にもあらず日本無類の一神也縁起等因るにたらず役行者嚴屈に封と云廣前の額は迦葉山の雪峰禪師二十一日山籠

して九頭拜禮の時の筆上野國加葉寺の雪峰和尚奥の院に山籠して拜禮せんと願ふに七日日美女一人來す終に廿一日山居す此時九ツの頭の大蛇頭然として雪峰に向ふ和尚弘法大師護摩所の岩奥の院の脇に有拜謁して生身九頭龍權現を禮し即時に筆を三山四社の額字を書と云鳥居川女人結界比丘尼石中院の脇有長明法師火定の靈地京加茂の産菊太夫と云和歌

乃地鳥居川の水上にて百日參籠あり此時河内判官四郎義忠の孫大井田七郎義純と末世成佛の問答有煎豆の名六拾六社の一の宮加茂長明の發端親鸞聖人山籠

神樂殿七月八日寶光院祭禮七月十日中院祭禮七月十五日奥院祭禮此外數度祭り宣澄大明神は東光院の住持表山中祖山村の産僧也往古戸隠山は天基

秋葉三尺坊は教釋院の住僧秋葉堂は奥院の山に有化して教釋院に住し後中興の人也依て神祭り中院村に宮を建て宣澄大明神と云此神瘴の病に願をかけて平癒する後願はたしは庭前にて踊を奉

堂大師堂二王門何れも寶光院中院奥院有瑪瑙山瑠璃光寺西山西光寺古來三宗三本坊の二ヶ寺當時

本坊勸修院顯光寺の靈寶靈物を拜し當本坊は天蓋往古顯光寺の跡寺衆徒塔頭五十一坊

奥院衆徒常泉院如勸院金輪院佛性院常樂院光明院安祥院明智院明行院觀法院東泉院眞常院右十二坊也中院の衆徒蓮壽院法泉院德善院覺照院自在院正明院十輪院本智院寶藏院松壽院智泉院智光院藥師院東福院觀喜院正智院行照院千光院壽教院松善院寶道院寶壽院福善院東光院 右廿四坊也寶光院衆徒教釋院靜教院遍照院本明院普賢院淨智院常行院安養院法教院智照院福壽院玉泉院勸壽院安樂院善定院廣善院善法院右十七坊也 三谷合して五十一坊の今衆徒也

伏兩界派戸隱派の山伏といふ峰に五丈の白石の岩有面は粉砂土の如し此石面に金剛界胎藏三十三所之

岩窟兩界曼陀羅岩の前に寶石の密壇あり過去迦葉佛說法行化往古三千坊乃古屋敷三山谷間に皆日

乃御子中院の惣社御澤通り日敷四十余日にて巡行御裏山中院より分れてのほる事十名物には

長節乃鞭竹名産胡黃蓮藥種効有椰木乃松乃手にとれは來世乃親と唄ふ念佛高聲に唱

也戸隱裏山の名木根元しれす七里余の山谷十二佛裏山のつ旭々乃御來光念佛高聲に唱

ふれは雲きり晴て不思議の來迎にあふ和歌には戸神山高御座山なとよめり本名高御座山にて今は高御

なき高みくら山いのり置ておさめん御代は神の間にく冷泉正三位俊成卿誠倉山といふ詠藻集にうこきに無双の靈地多く佛神應護の國なるへし

尚舊跡乃もれたるも數あるへし予が見聞乃大概をしるす乃み

註 國立國會図書館デジタルアーカイブに大正二年刊行の

「科野佐々礼石…標註 一四卷、補遺、雜 下」(DOI

10.11501/1241927)の24コマ目。「信州デジクラ」に

筆写の画像(144-145コマ目)があるも兩者多少の語句

の異同が有、筆写の方が原本に近いとも言い難い。